

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 最終)

中学校区 校番 14 学校名 呉市立函城中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	主体的な学びの推進による学力の定着と向上 書	・基礎・基本の徹底 ・思考力・判断力・表現力の向上	<p>○全国学力・学習状況調査の結果は、平均正答率の割合が国語(66.0%)、数学(60.0%)と、ともに全国平均を(国語+1.4、数学+2.8)上回った。また通過率30%未満の割合も国語2.2%(H31:4.3%)、数学4.5%(H31:17.4%)、平均で3.4%とH31の10.1%を改善でき目標を達成できた。無答率の割合も2.4%(国語0.7%、数学4.1%)と全国平均を5.4(国語+3.7、数学+7.1)上回り成果がみられる。</p> <p>○標準学力調査(1・2年12月)の結果は、5教科の平均を見ると、1年も2年も全国平均を上回ることができた。1年生は、社会と英語が全国平均を下回った。理科は10ポイント上回っている。2年生は、全科目とも全国平均を上回っており、特に英語は15ポイント上回っている。</p> <p>○「自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、84.3%と回復し、「自分で学習を調整しながら理解できるようにしている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、91.8%と高くなっており、取組の成果が見られる。「家庭学習(塾、家庭教師の指導時間を含む)を平日1学年-80分、2学年-100分、3学年-120分以上行っている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、3年生が93.3%と向上したが、全体では74.4%と減少傾向にあり課題である。特に2年生は56.5%(-14.3)と大きく減少しており対策が急務である。</p> <p>○「授業では、課題に対し、主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、92.5%(R3.7:84.2%)で目標値の90%を上回った。学年別にみても3学年とも達成できている。</p> <p>○主体的な学びの推進に関する評価項目の平均は、7月の数値に比べ、教職員で15.1ポイント向上し、生徒では6.1ポイント向上している。授業改善の教職員の意識の高まりが、生徒の意識の高さにつながっている。また、「授業で考えることが楽しい」と回答する生徒の肯定的評価の割合も85.8%(7月比+9.5)と向上しており、授業改善の成果が読み取れる。</p> <p>○「教科等の見方や考え方を働かせ」また、「思考を促す発問や切り返し」を工夫し、さらに考えを深め、深まりのある話し合いを促すことで、さらに主体的な学びを推進することが課題である。</p>	<p>○教科等横断的な取組として、授業で各教科の見方・考え方を働かせて、データやグラフ等を分析し説明したり、理由や根拠を示しながら説明したりする力を付ける。</p> <p>○授業の中で「めあて」「説明」「理解確認」「理解深化」「振り返り」カードを提示し、今何を学習しているのかを明確にして授業を行うことにより、生徒の学習に関するメタ認知を向上させ、学力の定着を図る。</p> <p>○また、課題意識をもって授業に参加させるために、「授業の振り返り」と「授業と家庭学習のつながりを大切にした課題」の出し方を工夫する。</p> <p>○今後も、時間の3点固定の取組とPTA宣言を守る取組をこれまで以上に保護者と連携して取組を推進し、生徒が自分の生活を自分でコントロールし、主体的に生活習慣を確立するように指導する。</p> <p>○教師の説明をよりコンパクトにより効率的に改善し、ICTの有効活用を推進し、深化問題に挑戦させたり、個人思考や集団思考場面の時間を十分にとることで、さらに「考える授業」を推進する。</p> <p>○授業構想シートを用いた「授業参観ウィーク」を継続し、互いに授業を参観し合い、これを機会に、発問や指導法の工夫・改善等日常的なOJTを進め、授業力を向上させる。</p> <p>○主体的な学びの実現に向けて、「教えて考えさせる授業」を柱に、授業改善を進め、学校全体の授業力を向上させる。</p> <p>□</p>
**	他者を思いやる心・規範意識の涵養及び社会性の育成	・自己指導能力の向上 ・自己肯定感の向上 書	<p>○「夢や目標に向けて努力している」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、7月から8.4ポイント向上し94.0%となり目標を達成している。</p> <p>○学校評価アンケートでは、「生徒指導の三機能を生かした積極的な生徒指導を基に、生徒会活動を中心に、生徒の自己指導能力の育成や生徒の自治的能力の向上への教職員の意識の向上がうかがえる。その肯定的評価は平均で86.7%(7月比で13.4向上)となっている。そして、この取組の成果が、「生徒会がもっと学校をよくしていくために行っている『今月の生活目標』を守るように努力している」90.2%、「自分から進んで生徒会活動や係活動に参加している」85.1%につながっている。今後も取組を継続し、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を育てていくことが課題である。</p> <p>○「自分にはよいところがあると思う」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、85.8%(7月比+6.7)[1年:71.4%(+6.3)、2年:93.5%(+3.9)、3年:91.3%(+10.0)]であり、全体としては85%以上の目標を達成できており、各学年とも数値の向上がみられ、これまでの指導の成果であると考えられる。しかし肯定評価の割合は、38.8%と低く、引き続き課題である。</p> <p>○「自分のよさが、まわりの人から認められている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は82.1%(7月+6.6)</p>	<p>○引き続き、教育活動全体をキャリア教育の4つの視点(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)から見直し、教科等横断的な取組として推進する。</p> <p>○今後も、生徒指導の三機能(自己存在感・自己決定・共感的人間関係)を基盤に、積極的な生徒指導に組織的に取り組み、生徒の自己指導能力をさらに高めていく。</p> <p>・行事等における生徒の主体的で自治的な活動をさらに推進する。</p> <p>・生徒主体の生徒指導規程の見直し等、生徒自身が自分たちの学校生活をよりよくしていく取組を推進する。</p>
		・自己肯定感の向上 書	<p>○現在「函城中学校に誇りを持っている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、88.8%(7月比+6.8)と高まってきている。これをさらに向上させるために、授業においても学校生活においても、生徒自身に課題を見つけさせ、生徒自らが自分の改善策を考え、解決に向けて努力し、振り返り、更に発展させていく取組(生徒自身でP→D→C→Aサイクルを実働させる)を継続</p>	<p>○現在「函城中学校に誇りを持っている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、88.8%(7月比+6.8)と高まってきている。これをさらに向上させるために、授業においても学校生活においても、生徒自身に課題を見つけさせ、生徒自らが自分の改善策を考え、解決に向けて努力し、振り返り、更に発展させていく取組(生徒自身でP→D→C→Aサイクルを実働させる)を継続</p>

			<p>[1年:61.9%(+6.1), 2年:93.5%(-0.3), 3年:89.1%(+14.1)]であり、目標まで3ポイント足りなかった。1年の数値が低いこと、そして肯定評価の割合が、27.6%(7月比+1.0)低いことも、引き続き課題である。</p> <p>○しかし「授業で自分の考えが認められている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は86.6%(7月+5.3)[1年:73.8%(+1.7), 2年:91.3%(-0.4), 3年:93.5%(+14.3)]となっており、授業の中では認め合う集団づくりの成果が現れている。</p>	<p>する。その過程で自分を見つめ自分のよさを実感できるように指導する。</p> <p>○自己肯定感・自尊感情を高める授業づくり・学校づくりを継続する。</p> <p>○積極的な評価・情報発信(適切な言葉がけ、自他のよさの発見、交流活動・相互評価、朝会・各種通信・掲示等の活用)を引き続き、継続し実施する。</p>
*	規則正しく生活し、活力ある生徒の育成	・体力の向上	<p>○部活動等活動が制限される状況であったが、体力合計点を見ると、3年男子57.3(+9.5)[2年次:47.8, 1年次:40.0], 3年女子64.3(+14.4)[2年次:49.9, 1年次:55.2], 2年男子51.0(+13.7)[1年次:37.3], 2年女子56.6(12.1)[1年次:44.5]と大きく伸びている。生徒の主体的な取組の成果が現れている。県平均(R1)を上回った種目の数は、3種目増えて20/48種目、体力合計点は1年女子以外は県平均を上回った。</p> <p>○「体力を高める努力をしている」と回答した生徒の割合は86.6%と高いが、教職員の体力向上への意識は60.0%と低くなっており、学校全体で組織的に体力向上に取り組むという意識を向上させていく必要がある。</p>	<p>○引き続き、生徒の主体的な体力向上の取組を推進する。</p> <p>・保健体育の授業では、自分の体力の現状を把握させ、一人一人具体的に目標を設定させ、記録向上に向けて、グループで取り組ませる。理論学習により、体力向上への意欲と実践力を高める。</p> <p>・保体委員会の日常的な活動として、昼休憩のグラウンドでの活動の奨励と、朝学活での体力作りを継続する。</p> <p>○体育の授業で効果的な補強運動を行うとともに、部活動顧問との連携、保護者との連携をさらに進め、教職員の意識と生徒・保護者の意識を向上させる。</p>
		・自分の命は自分で守る 	<p>○「いつも『自分の命は自分で守る』ことを意識して生活している」「いつも『土砂災害対応携帯マニュアル』と『新しい学校の生活様式カード』をカバンに入れいつでも見ることができるようにしている」と回答する生徒の肯定的評価は97.0%(7月比+4.2), 96.2%(7月比+7.0)と非常に高く、肯定評価「全くそう思う」の割合もそれぞれ81.3%(7月比+2.2), 81.2%(7月比+5.7)と高い。「家庭で防災について話をしたり、いざというときどのように行動すればよいか家庭のルールを決めたりしている」と回答する肯定的評価の割合は、生徒79.1%(7月比+2.1), 保護者60.8%(7月比-9.4)である。</p>	<p>○両城中学校防災週間と呉市防災週間を中心とした防災の取組の成果が大きく現れており、今後も充実させていく。</p> <p>○「生徒の危機意識を高めるように取り組んでいる」「危機管理マニュアルに基づいて行動している」と回答する教職員の肯定的評価の割合は、86.7%(7月比±0)と86.7%(7月比+6.7)である。教職員の防災意識を向上させることと、年間通して防災教育を進めることで、生徒と保護者の防災意識をさらに高めていく。</p>
		・生活リズムの確立	<p>○「時間の三点固定を意識して行動し、生活リズムが確立できている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、全体81.3%(7月比+7.9)と目標を達成できた。しかし、1年は69.0%(+1.9)と低くなっており課題である。この項目の保護者の肯定的評価の割合は64.7%と低く、生徒と16.6ポイントが開いていることも課題である。</p> <p>○携帯電話等を、PTA宣言どおり「21時以降は保護者に管理してもらっている」と回答する生徒の肯定的評価の割合が73.9%(7月比-0.2, 昨年度比-2.6)と減少し目標からさらに遠ざかった。1年66.7%(-7.7), 2年:71.7%(-3.3), 3年:82.6%(+9.7)。この項目の保護者の割合も58.8%(-4.3)と低くなっており課題である。</p>	<p>○今後も、時間の3点固定の取組(勉強を始める時間・就寝時間・起床時間の時間をデイリーライフ等に記入させる)とPTA宣言を守る取組を保護者と協力して推進し、生徒が自分の生活を自分でコントロールし、主体的に生活習慣を確立するように指導する。</p> <p>○携帯・スマホについては、情報モラル教育も含め、家庭でのルールづくりとその遵守を保護者と連携して進めていきたい。またそのための情報発信も行う。</p>
働き方改革	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	<p>○教職員アンケートでは、「生徒と向き合う時間が確保されている」と回答した教職員の肯定的評価の割合は、60.0%(7月比-13.3%)と減少し依然として課題である。しかし、昨年度の数値と比較すると、「働き方改革を意識し、業務改善を推進し、生徒と向き合う時間の確保に取り組んでいる」と回答した教職員の肯定的評価の割合は86.7%(7月比+6.7, 昨年度比+29.6), 「他の教職員と協働し組織的に取組を進めている」86.7%(7月比±0, 昨年度比+15.3), 「学校経営に積極的に参画している」80.0%(7月比+6.7, 昨年度比+15.7)と向上しており、働き方改革への意識と当事者意識が向上していることがうかがえる。その結果、時間外勤務時間が月45時間を超える教職員の人数(月平均)が、中間評価では月平均9.3人から、最終評価では4.9人と若干改善できている。現在、各主任や担当者が積極的に改革を進めており、今後も、少しずつではあるが、改善できると考えられる。</p>	<p>○教職員一人一人が資質・能力を向上させ、学校全体の教育力と業務遂行能力を高める。そのため、日常的なOJTの形で協働して取組を進める。</p> <p>○学校教育活動全体をゼロベースで見直し、思い切った取組にチャレンジする。</p> <p>○学校教育目標、重点目標の達成に向けて、協働して取組を進める。</p> <p>○これまでの取組を見直すとともに徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有化 ・勤務時間数の把握(「見える化」) ・業務内容の精選と効率化 ・事務処理の迅速化(報告書や提出物の提出×切の厳守) ・部活動指導体制の見直し ・会議の精選と改善 	
	長時間勤務の削減			